

glabro. Lamina folii adulti obovata interdum oblongo-obovata ca. 4–11 cm longa 3–6 cm lata, apice acuminata raro cuspidato-acuminata basi rotundata interdum truncata vel acuta utrinque 8–10 venosa, supra atro-viridis luciduscula glabra infra pallide viridis sine luce. Petioli ca. 16–20 mm longi patente pilosi, atropurpureo-rubescentes rarissime apice petioli vel basi laminae 1- vel 2-glandulis instructi. Drupa pauca.

Nom. Jap. Takino-zakura nom. nov.

Hab. in Takino, Fukushima Pref. (T. Kawasaki, Apr. 26, 1968—typus in Herb. Nat. Sci. Mus. Tokyo.)

○エイシュウカズラの語源 (津山 尚) Takasi TUYAMA: Explanation of Japanese plant name 'Eishūkazura'.

*Gardneria nutans* Sieb. et Zucc. ホウライカヅラにならい中井猛之進先生は同属の *G. insularis* Nakai に対してエイシュウカヅラの名を与えられた。この植物は濟州島の植物をもとにして発表されたものであるが、和名は「瀛洲カヅラ」とあるが、特に説明はない。辞書によると、「瀛洲は海中にあって、仙人の住むという三神山の一」ということである。三神山は即ち、蓬萊、方丈、瀛洲の三島である。即ち蓬萊カヅラと同属であるので組にしてこの名を与えられたものと考えられる。西欧にもこのような組の思想があると思われるが、上述のように中国では特に組あるいは対の思想が強く、これが日本にも強く影響していると思われる。Walker 氏の質問として、どうしてアオガネシダというのか、と聞かれた。確かに日本では青と緑とが色感の上からではなくて、言葉の上で混同されている面があり、一見日本人の色感が敏感でないととられ勝である。しかしこれはアオガネ、アカガネ、シロガネ、クロガネと対になっている歴史的の組合せであって、ミドリガネでは意味をなさないわけである。文化の歴史が異なるととんでもない誤解があるものである。オーストラリアの人人がツバキについて、日本人は red と rose の区別がつかないのでないかと書いているのを見て失笑したことがある。自国の文化や言葉のみしか知らない非知識人の浅見である。

(お茶の水女子大学生物学教室)